

県道の整備について

問

県の財政改革により、限られた予算の中、県道の整備が進んでいる。整備の必要性、優先順位は、どのように決めているのか。

主要県道久万中山線では、安全確保のため、地域の皆様により、伐採、草刈等の清掃がなされた。今後の整備のあり方について問う。

答

中村市長

県と市は、三位一体改革による補助金等の削減、さらには道路特定財源の一般財源化の閣議決定など、道路整備事業財源は大変厳しい状況となっている。

現在伊予市内の県道は、主要地方道六路線、一般県道十

田中 弘 議員



中山地区栃谷地域住民が整備した県道

三路線があり、中山地区には、主要地方道久万中山線と一般県道九路線があり、そのうち五地区で改良工事を行っている。工事は県が市、町の要望を受けて、県下全域に配慮した計画により行っており、優先順位については、安全性の確保や交通量を評価して実施をしている。

県では、緊縮予算の中、道路の管理については、愛ロード制度の活用や、草刈を地域の住民団体に委託する取組を始めており、積極的に取り組んでいきたいとの連絡を受けている。

このたびの栃谷地域の住民の方々の行動に対しては、大変感謝をしているとのことであった。

今後の県道整備については、地元住民の意見をさらに考慮し、中予地方局と連携を取り効果的な整備が図れるよう要望していきたいと考えている。

中山高等学校の存続を願う

問

県立学校再編整備計画で、二十三年度に中山高校の特用林産科の伊予農業高校への統合、普通科の募集停止の方針が示された。高校存続について市の対応を問う。

廃校は地域の経済、活力に大きな影響を与える。跡地利用についても考える必要がある。今後の予定を問う。

答

上田教育長

教育委員会としては、地域社会で果たしてきた役割や、卒業生等の心情を考え、ぜひ存続させてほしい旨を要望してきた。

また、市長も県知事へ直接存続をお願いしていたところ

であるが、誠に残念な結果となり、今後計画を変更することは、非常に厳しい状況である。

しかしながら、地元中学校からの進学状況は、平成十八年度十二人、十九年度四人、二十年度一人と年々減少しているが、二十一年度は八人が進学を希望しているという明るい兆しも見えている。

教育委員会としては、特用林産科を初めとする個性あふれる学校の魅力を市内の各中学校や地域に対し広報紙などで紹介し、入学者の確保に向けて力を入れているところである。

議員を初め地域の方々、学校関係者と工夫をして存続に向けての努力をしていきたいと思っておりますので、今後とも御理解、御協力をお願いいたします。

なお、存続ができなかった場合の跡地利用の件は、敷地は県有地と伊予市、民間からの借地であり、建物は愛媛県の所有物であるので、県の方性が示された段階で伊予市としても検討したいと考えている。



創立60周年を迎えた中山高等学校